

平成27年度 学校評価報告書1 (計画段階 ・ 実施段階)

いずれかを○で囲む

学校名		福岡市立博多工業高等学校		学校経営方針・学校教育方針		今年度の重点目標		評価(総合)	
学校長	ふりがな	みやざき しんすけ		(1)「福岡市立高等学校活性化に向けた取組方針—今後の5年間を見据えて—」に示されている具体的方策の推進に組織的に取り組む。さらに次なるステップに向けての取組を策定していく。 (2)教育目標達成のため、学習指導、進路指導、生徒指導等に、各学科、各部、各教科、各種委員会が連携・協力した組織的・機能的な学校運営を行う。 (3)工業高校の「ものづくり」をはじめ、魅力ある諸教育活動を通してスペシャリストを育て、産業界や地域社会から求められ、期待される生徒を育成する。 (4)本校諸教育活動を通して、社会人として求められる挨拶や礼儀、マナー、言葉遣い、規律、自己表現力、コミュニケーション能力、公德心等を身に付けさせる。 (5)生徒の学力や能力を伸ばさせ、安心・安全に過ごせる学校生活を保障する。 (6)体罰・セクハラ防止、飲酒運転の厳禁、適切な情報管理、個人情報の保護などを徹底し、信頼される学校経営を行う。		「Challenge博工」のスローガンを維持し、生徒を磨き、教職員とともに日本一の工業高校になる。 (1)生徒会を中心とした挨拶運動を始め、規律を守り、自発的な判断・行動能力を高めさせ、諸行事の円滑化を図り、誇りを持たせる。 (2)教科指導を強化し、生徒個々の学力の向上を図り、進路実現に繋げる。また、教育課程および入試制度の改善に取り組む。 (3)社会の一員として適切に行動できる生徒の育成のために、社会的な資質や能力・態度を身につけさせる。また、博工スタンダードとして「挨拶・身だしなみ・話を聞く態度」の確立に取り組む。 (4)生徒の就業観・職業観を養い、全ての生徒の進路実現に応える。 (5)工業技術「各種競技会・資格取得・ものづくり」の向上のために企業や大学等との積極的な連携に取り組み、基礎から高度な技術まで身につけさせる。 (6)生徒との関わりをさらに深め、楽しい学校づくりのための人権感覚を養う。		学校自己評価	学校関係者評価
	氏名	宮崎 信介							
校長本校在任年数		1年							
学校関係者評価委員会委員長	ふりがな	ふくしま さだあき		B	B				
	氏名	福島 貞昭							

昨年度の成果と課題	◎成果：学校内部評価を通して、生徒の現状の把握と解決の方策を協議することができ、学校関係者評価により、今後の学校運営について貴重なご意見をいただいた。 ◎課題：次の課題が挙げられた。①資格取得や基礎学力の向上 ②日常的なモニター評価による開かれた学校づくりの推進 ③学校行事(体育祭・公開授業など)をさらに地域に密着したものにす方策 ④キャリア教育(就職指導・進学指導)の充実
-----------	---

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
	目標	具体的方策					
教育課程・学習指導	授業規律の確立と授業改善	授業アンケート等を活用し、情報の共有化を図り、授業改善の工夫	B	授業アンケートの結果から1学期よりも2学期が、生徒の授業に取り組む意欲がなくなってきている。生徒の授業に対する興味関心を引き出すために教師の授業改善が必要となるため更にICT等活用を積極的導入できる研修を進めていく。 ICT活用授業については、設備等の導入により職員研修や研究授業と推進できた。28年度から研究に向けて更に充実していきたい。評価基準については、今年度、各教科において、1科目1単元の観点別評価基準の作成に着手した。今後は、その内容を検討し改善し全職員の共通認識ができるようにする。	B	生徒の学習意欲の向上を目指して、今後も教職員の組織的な研修の取組が必要である。	生徒の学習意欲を高めるために、ICTを活用した授業を進める。教員間での情報共有を進めるために、教員間で授業参観しやすい環境を整えていく。作成した教材を融通できるシステムを構築していく。
		ICT等を活用し、授業に興味も持って参加でき教材や教え方の工夫	B				
		ICT活用授業やSPP授業の研究授業の実施	A				
生徒指導	基本的な生活習慣の確立及び規範意識の向上	新学習指導要領に応じた評価基準の検討	B	生徒指導部主体であった風紀検査を学年主体に移行することにより、学校全体として組織的に身だしなみの徹底を指導できるようになった。交通安全指導は、職員の輪番制で毎日行っているが、自転車通学者の事故が13件あり、乗車マナーについての苦情も絶えない現状である。 生活専門委員会活動を活性化させ、交通安全指導及び駐輪場指導を計画的、組織的に行っていくよう準備中である。部活動生徒の規範意識を高め、ボランティア活動等にも積極的に取り組めるようにしていきたい。	B	何よりも生徒の風紀指導・交通安全指導においては、教職員の指導体制が一枚岩になることが大切である。特に自転車の乗車マナーについては、地域との連携・協力が必要と考える。	風紀検査を全職員で実施することにより、風紀に対する職員・生徒の意識を高めていく。交通安全指導については、特に自転車乗車中の交通ルールを守らせるように警察・地域・PTAとの連携を図り、啓発運動を実践していく。
		全職員による登下校指導(挨拶・身だしなみ・自転車マナー)及び定期的な風紀検査の徹底指導	A				
		生徒会専門委員会の諸活動の活性化	B				
進路指導	確かな進路実現(就職指導)	部活動生の加入率向上及び諸活動の活性化	B	12月上旬に全員の就職内定を達成することができた。引き続き企業との連携と新規企業とのパイプづくりに取り組む。早期離職の減少によって、企業との信頼関係を構築しつつあるが、さらなるキャリア教育の充実を目指したい。本校の課題の一つである基礎学力向上の取り組みをいっそう強化し、一次応募で100%の進路実現に挑みたい。進学指導についても同様で、学力向上の補習などの充実を図っていきたい。	B	進路指導は、学校の評価を表す集大成である。進路実現に向けて、粘り強く、きめ細かな指導を継続していただきたい。キャリア教育として卒業生の相談にのって上げられるような学校の雰囲気が築けるとよいのではないかと、また、キャリア教育の原点として、長いスパンで物事を考えられる生徒を育ててほしい。	生徒が就職後、コミュニケーション能力の構築と早期離職防止の手だてを模索することは、キャリア教育を推進する上でとても重要である。学校教育の中だけでなく、地域・家庭そして企業における教育力の基に、具現化して行くことが臨まれている。学校と地域社会との連携を益々深め、キャリア教育を推進して行きたい。
		企業とのパイプを強化させ、信頼関係を確立させる	B				
		キャリア教育の充実によって、早期離職者の防止に努める	A				
工業特色	「ものづくり」技能・技術の向上、工業各科学習指導	生徒個々の進路相談を充実させる	B	厚生労働省が推進する「ものづくりマイスター」を招聘しての、授業・技術講習を複数の学科で行い、その成果を上げることができた。しかし、JST主催の「中高生のための科学研究実践プログラム」については、応募し採択がなされたが、採択時期が遅れた事により、実施することができなかった。 資格取得プログラムに則った、計画的・組織的な指導が展開され、十分な成果を上げることができた。その結果として、ジュニアマイスター申請が前年度よりもほぼ倍増した。	B	工業高校の魅力づくりに向けて、企業や大学とも連携を広げ、工業教育の改善・発展に努めていただきたい。	
		学校間(大学・専門学校等)連携の推進	A				
		資格取得プログラムに則り、指導体制・方法を充実させ、合格率の向上を図る	A				
修学支援	不登校生徒の減少	専門性・難易度の高い資格検定に関する研究を行い、その受験に向けた検討を行う	A	数値は前年度を下回らなかったが、時機を逃さず家庭訪問や面談を行い、連携して取り組むことで、回復につなげることができた生徒もいた。転退学者については、より良い進路を考えた上でのものであり、不本意な形のものではなかった。 校内では、子どもたちの実態や地域の声から研修会を実施した。校外の学習会へは、あらたに4名がここ3年間で初めて参加した。授業内容の再構築と交流学習の組織化も目途がたった。	B	多様な生徒に対応するため、地域や家庭・専門機関と連携し、きめ細かな指導体制が望まれる。今後も引き続いて、生徒一人ひとりが寄り添える学校の体制づくりに努めてほしい。	
		早期に家庭訪問や面談をし、生徒の状況や思いを把握し、保護者や担任、SC、との連携を図る	A				
		「人権を通じての教育」の保障と、生徒の実態と差別の現実に立脚した人権教育の推進	B				

※ 学校自己評価は、5段階評価(S…目標を大幅に上回る達成度、A…目標を上回る達成度、B…目標どおりの達成度、C…目標を下回る達成度、D…目標を大幅に下回る達成度)で成果や取り組み状況等について記入すること。
 ※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(S~D)で評価すること。